

令和2年11月30日発行 江別市立上江別小学校
URL [http:// www.ebetsu-city.ed.jp/kamiebetsu-s/](http://www.ebetsu-city.ed.jp/kamiebetsu-s/)



学校教育目標

いきいき のびのび
☆かんがえる子
☆やさしい子
☆げんきな子
☆なかよくする子

文責 教頭

令和2年度 全国学力・学習状況調査の結果について

校長 松井 卓

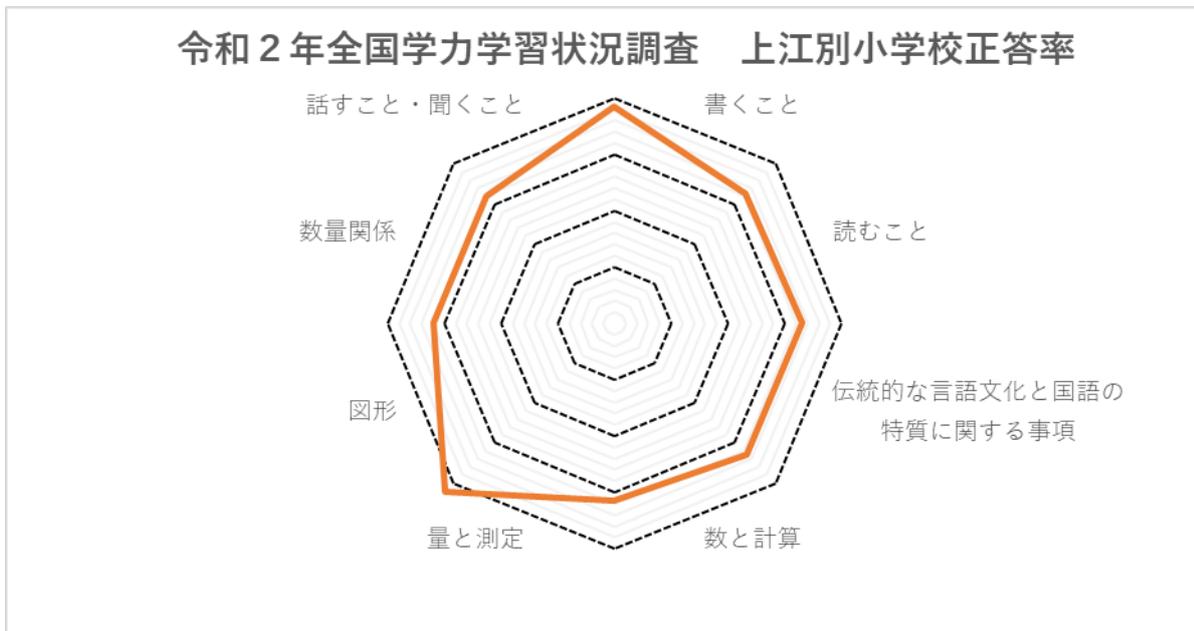
今年度の全国学力・学習状況調査は、新型肺炎の影響もあり、全国一律での実施はできませんでした。江別市の小中学校は自校で取り組むことになり、本校では8月5日に実施致しました。自校採点の結果を6学年の保護者の皆様には、すでに「個人票」の形でお知らせしております。

さて、今年度の調査結果からうかがえる、本校のおおよその傾向についてお知らせいたします。学校では、今回の結果を真摯に受け止め、本校児童の学力がさらに向上するように、職員一丸となって指導の工夫改善に努めて参ります。

また、保護者・地域の皆様には、今後も一層のご理解を賜りたくお願いを申し上げます。なお、ご不明な点がありましたら、学校（教頭）までお問い合わせください。

1. 本校の現状と課題

(1) 国語・算数の結果の概要



国語科における「書くこと」では、問題文の中から理由を見つけて記述する問題に課題が見られました。「話すこと・聞くこと」では、聞かれていることを正確に捉えて、答えることができています。「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では、主語と述語、修飾語と被修飾語のつながり意識をして書くことに課題が見られました。

算数科における「量と測定」では、三角形や平行四辺形などの面積、立体の体積が出題されましたが、高い定着率が見られました。「数と計算」では、四則計算では高い定着率が見られましたが、立式の根拠や何をもとにしているのか説明する問題では課題が見られました。「図形」では、円柱の側面の長さから、底面の円の直径を求める問題に課題が見られました。

教科	今年度正答率が高い項目	今後強化していきたい項目
国語	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 問題の趣旨を捉え、適切な答えを選ぶことができる。 ➤ 登場人物の心情を読み取り、適切な答えを選ぶことができる。 ➤ 送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 「一定の条件の下、理由や自分の考えを書く」学習。 ➤ 文章や問題文を正確に読み取る活動。 ➤ 視覚や聴覚を通して入ってきた情報を、自分の言葉や文章で表現する活動。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 図形の面積の求め方を理解している。 ➤ 立体の性質について理解している。 ➤ 異分母の分数の計算ができる。 ➤ 折れ線グラフから変化の特徴を読み取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 計算の仕方や答えを選んだ理由を書く学習。 ➤ 学習したことをもとにして、未習の学習内容の解決に生かしていく活動。 ➤ 算数に関わる基本的な知識と四則計算の確実な定着。

(3) 「児童質問紙調査」における学力向上に関連する項目について

①生活に関連して

- 「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある」「人が困っている時に進んで助ける」「人の役に立つ人間になりたい」の項目において、肯定的な回答が多かったです。今後も、努力を認め、励ますことで自尊感情と公共心を育んでいくことが大切であると考えます。
- テレビの視聴時間が1日2時間以上と回答している児童が全体の7割おり、そのため家庭での学習時間が学年×10+10分を下回っている児童も多くいます。学校では引き続き、家庭学習の定着に向けて声かけをしていきます。

②学習に関連して

- 「国語の問題について、書く問題にどう解答したか」では、最後まで努力したと答えた児童が多いことから、学習に対して粘り強く取り組んでいることが分かります。
- 算数の学習で「よく分かる」「なぜそうなるのか理解している」と肯定的に回答した児童が多いことから、主体的に学習に参加していることが分かります。
- 主体的に学習に参加している一方で、「国語の授業で、自分の考えを話したり、質問したりしているか」「国語や算数の授業で、自分の考えやその理由を書くことができる」では、できていないと回答した児童の割合が高い様子が見られました。新型コロナウイルスの状況下でも対話活動や書く活動を工夫して取り入れていくことが大切であると考えています。

2. 学力向上にむけた取組（学力・学習状況の結果を受けて）

1. 朝学習では、短時間の中で繰り返し行う基礎的なドリル学習に集中して取り組みます。また、授業の中に繰り返し問題に取り組む時間を作ります。
2. 国語科においては、「書くこと」や「言語事項」を重点的に指導します。特に「書くこと」については、自分の考えを決まった字数や短作文にまとめる取り組みを充実させていきます。
3. 算数科においては、少人数指導を通して、複数の指導者で組織的に基礎基本の定着を図ります。また算数的な操作活動を多く取り入れ、多様な考えを引き出せるような授業づくりをしていきます。
4. 学校全体で授業改善に取り組み、学習のルールや学習の流れなどを学校全体で共有していきます。
5. 家庭学習においては、中学校と連携した家庭学習強化週間の取り組みを通して、学習内容の充実と学習時間増につながる指導をしていきます。
6. 担任外やサポート教員等を活用した個に応じたきめ細かい指導を継続します。（補充学習）